

山が神格化され、人々の祈願の場所となっていくと、参詣者は神に仕える修験者、法印などの先導を受け、身辺の不浄を払い、水垢離をとって白装束に身を固め、参詣する習慣が形成されていきます。

三山詣りは、月山、羽黒山、湯殿山を巡拝するのですが、当町ではもっぱら湯殿山参拝をもって三山参詣と称している。参詣によって得られるご利益、加護を念じて建立された石碑は、ほとんど湯殿山碑となっています。町内に残っている出羽三山供養塔に、月山、羽黒山の参詣碑は見当たりません。

神格化された三山は、それぞれ月山大権現、羽黒山大権現、湯殿山大権現（権現とは、人格が神格化されたもの）であり、仏式でいうと月山は阿弥陀如来、羽黒山は観世音菩薩、湯殿山は大日如来を本地仏としているように、霊山は神格と仏格を合わせ持つようになっています。

湯殿山信仰

明治維新後、神仏分離令に従って、神と仏を合祀することが禁じられました。以前は神と仏の明確な区分を持たず、ひたすら祈願の対象として神仏が存在していたため、庶民にとっては神格と仏格の両方があることは何の不思議もありませんでした。

月山は、およそ2000メートルほどの高山で、容易に人を近づけることがない山でした。また、羽黒山は一種の里山で、眺望もよく庄内平野から日本海を見通せて、信者の多くは沿岸の漁民でした。

これに引きかえ、湯殿山は深い渓谷にあり、女陰の形をした岩から熱湯を溢れさす特異な地形（谷の行き止まり）がご神体として敬われ、いかにも信仰の対象にふさわしい所です。それが、女人禁制、霊験あらたかな神、母性崇拜、多くの産物を生み出す信仰とかかわっていったのだと思われれます。

※参考 中山町史 中巻
第10章第1節 庶民と信仰

私たち地域おこし協力隊です！ No.14



こんにちは。ようやく春になったと思いきや、夏のような日差しに干からびかけている協力隊です。さて、5月は旧柏倉九左衛門家を国の重要文化財に指定するよう答申があり、協力隊も嬉しいお知らせに沸き立つ一方で、もう一つ、別の意味で心沸き立つことに出会いました。岡地区の不動沢川の源流近くにある“お不動様”です。（広報なかやま2016年7月号に紹介記事あり）



後光と旗と前田さん

砂防ダムから歩くこと約15分。とても気持ちの良い新緑の中、岩肌から流れ落ちる湧き水の麓に不動明王や地藏菩薩が彫られた石像がありました。苔むす中でも不動明王像の周囲には赤色の顔料が残っており、ひととき印象深かったです。

元々は高取山の山頂にあったというお話や、清水が眼病に効くという伝承を伺うと、かつては山を中心（一体？）とした信仰があったのかなと想像してしまいました。

旧柏倉九左衛門家をはじめ、中山町は本当に様々な歴史的スポットがあり面白いなと感じました。そして、そんな激アツスポットで昔はよく遊んだという町内の方々の話を聞くのがまた楽しいですね。

後日談ですが、心が沸き立った勢いで町内の寺社仏閣をお参りしたところ、少々熱中症気味になったので、皆さまもアツサにはお気をつけください。



幽玄な雰囲気漂うお不動様